

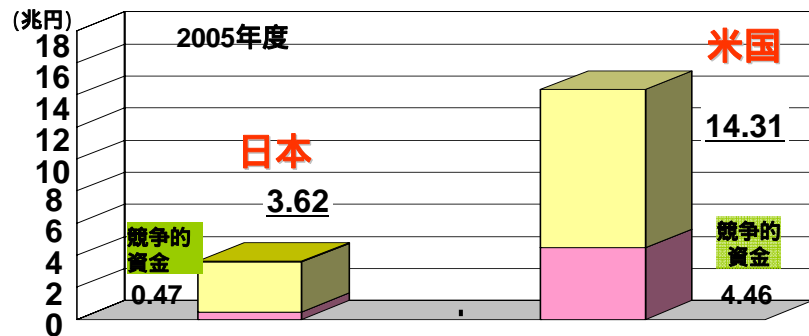
# 競争的資金の拡充と 制度改革の推進について

平成19年6月14日

総合科学技術会議有識者議員

# 1. 競争的資金の現状

## (1) 競争的資金と科学技術関係予算 (日米の状況)



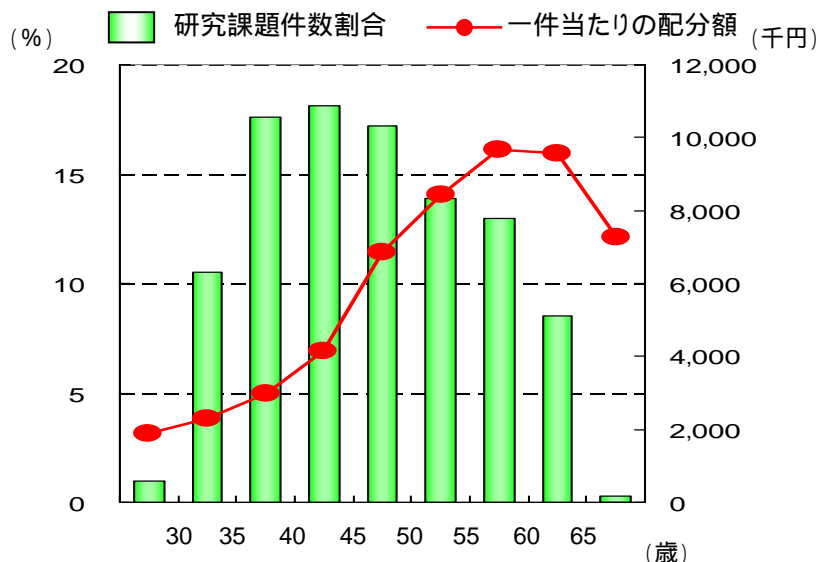
(注) 日本は補正予算を含む。米国はOMBのデータ。ただし、定義の違いがあり、単純な比較はできない。

## (2) 若手研究者対象の競争的資金

	1件当たりの金額	対象者	期間
日本	総額1000万円以下のものが多い	35～40歳以下のものが主	2～4年以内のものが多い
米国	総額3000万円～2億円程度	テニュアトラック又は研究歴5年以内の独立研究者	5年程度が主

(注) 文部科学省・科学技術政策研究所資料などから内閣府作成。日米の競争的資金では、人件費の扱いが異なることなどに留意が必要(例えば、NSFでは、人件費が直接経費の約半分を占める。)

## (3) 年代別研究課題件数・1件当たり配分額



(注) 平成17年度の研究代表者への配分額。政府研究開発データベースより

## (4) 主な制度・配分機関の1件当たりの規模・申請件数

		1件当たりの金額 / 年	平均研究期間	新規申請件数
日本	科研費	約300万円 (2006年)	2.7年 (2005年)	約10万件 (2006年)
	NIH	約4,400万円 (2005年)	約4年 (2000年)	約3.3万件 (2006年)
米国	NSF	約1,500万円 (2004年)	2.9年 (2004年)	約4.4万件 (2004年)

(注) 文部科学省資料、NIH・NSF資料、政府研究開発データベースなどから内閣府作成。日米の競争的資金の相違については、(2)の注参照。

## 2. 競争的資金の制度改革の推進

### 競争的資金制度の主な課題

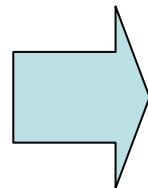
#### 若手への資金配分が少ない

#### 制度の細切れ

- ・継続性の不足
- ・応募件数の過大

#### 研究費の使いにくさ

- ・単年度会計主義
- ・ルールの不統一など



### 制度改革の方向

#### 若手研究者向け競争的資金の充実・強化

- ・意欲的・挑戦的研究の支援
- ・評価手法の見直し

#### 制度間・内のシームレスな仕組み

- ・類似制度の整理・統合
- ・長期的な支援の仕組み

#### 競争的資金の効率的な運用

- ・独立配分機関への移行と複数年契約の拡大
- ・ルールの統一化
- ・全制度で間接経費30%早期実現

競争的資金を拡充し、競争環境の醸成により、**基礎研究の推進とイノベーションの創出**